

○令和3年度の具体的な学校経営目標・計画

教育重点	具体的な取組	担当分掌	今年度の達成規準	中間評価	最終評価
I 人間力の向上	①基本的な生活習慣の確立と自己管理意識の高揚	総務課 進路課 生徒課 教科 管理厚生課 学年団 専門科	社会人としてのTPOに応じた態度、挨拶やマナーが当たり前のこととしてできている。 遅刻数が減少し、諸手続が適切に報告できる。また、防災と受診など安全や健康について意識できている。	A	A
	②他者を思いやる気持ちの育成と良好な関係づくり意識の高揚	教育相談室 進路課 学年団 専門科 教科	生徒の情報が共有され、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめ、校内でも連携を図りながら、教育相談の充実が図られている。	A	
	③部活動の更なる充実・活性化	総務課 専門科	活動状況やコンクール等の結果がホームページで迅速に発信できている。	B	
	④部活動等を通してのリーダーの育成と豊かな社会性・人間性の高揚	生徒課 専門科	顧問との連携や部員の状況把握や指導等、部長を中心とした運営ができ、目標に向かって努力していこうとする態度が見られる。	A	
	⑤HR活動・生徒会活動への積極的な参加と自治活動意識の高揚	生徒課 管理厚生課 図書課 学年団 専門科	生徒が生徒会や各種委員会主導的な役割を果たし、生徒一人ひとりが満足のゆく学校行事（体育祭・文化祭）が実施できた。	A	
II 学力の充実	①授業参観・校内外研修・ICT機器の活用等を通じた興味の持てる・わかる授業の実践	総務課 教務課 図書課 学年団 専門科 教科	授業や説明会等でICT機器を効果的に使い、わかりやすく伝えることができる。教育課程上の課題が解決できている。授業参観を行い、自らの指導の改善に生かしている。	A	B
	②朝学習等を活用した授業への取組意識の高揚と、家庭等での学習習慣の確立	教務課 学年団 専門科	基礎力診断テスト等の「高校生のための学びの基礎診断」の蓄積データに基づいた学習計画を生徒自身が立て、朝学習を活用した事前指導によって、学ぶ習慣が身に付いている。	B	
	③学習した基礎的な知識・技能の定着	資格検定室 専門科 教科	基礎力診断テストの成績や各種検定の合格率が上がる。	B	
	④各種競技会やコンテストへの参加・応募を通じた学習意欲の向上	専門科	各専門科の特色を生かした資格・検定への指導体制が確立し、生徒は積極的に受験している。	A	
III キャリア教育	①より高度な資格取得を通しての自己研鑽	資格検定室 学年団	受検者に参考書を貸したり、ガイダンス資料を更新したりすることで、職業教育技術顕彰とジュニアマイスター顕彰（ゴールド）認定者数が増加している。	A	B
	②実験・実習を通じての勤労観の育成	専門科	実習を通じてものづくりの基礎基本を習得し、安全に対する認識を身に付けるとともに、コミュニケーション能力の向上が見られる。	B	
	③企業・学校訪問活動、関係機関等の積極的な活用による企業研究・学校研究の推進	進路課 学年団 専門科	企業訪問や進学説明会から情報の収集に努め、勤労観を育みながら校内説明会を実施し、卒業後の進路保障も見据えた情報提供ができている。	A	
	④進路意識の深化を目指した情報提供の充実	進路課	2・3年生で進路希望調査を実施することで動向を早めに把握し、必要とされる情報提供の充実を図ることができる。	B	
	⑤新しい学力テスト実施に対応した就職・進学指導の充実	進路課 専門科	新指導要領実施に向けてポートフォリオ（活動履歴）を導入して運用を検証し、次年度に向けて充実を図ることができる。	B	
IV 地域連携	①開放講座、作品展示会、イベントへの参加、オープンスクール等の充実	総務課 管理厚生課 専門科 学年団	地域とのイベントやワークショップで本校のものづくりの魅力を発信する。学校説明会や入試説明会の充実を図り、志願者倍率が1倍を超える。	A	A
	②ホームページ・ツイッターを活用した校内外向け情報の発信と有効な活用	総務課 進路課 教育相談室 専門科 資格検定室	学校HPページの更新や資格検定室NEWSの充実を図り、広報活動や進路情報提供の推進が図られる。ブログの更新を行い、保護者等のフォローの割合が増加している。	A	
	③計画的なボランティア活動や社会貢献活動を通しての地域との連携推進	管理厚生課 学年団 専門科	委員会主催の社会貢献活動を実施するとともに、行事後の清掃活動が徹底される。	B	
	④地域の防災拠点として機能できるための防災教育の推進	管理厚生課	各種防災研修会からの情報で、生徒に防災や災害時における対処についての意識を高めることができている。	A	
V ものづくり	①SDGsやPBLの視点に立った、ものづくりの推進	専門科	SDGsやPBLの視点に立ったものづくりが実践され、技術者としての精神を学ばせることができている。	A	A
	②5S運動を推進し、危険予知能力を育成するなどの安全教育の徹底	専門科 教科 管理厚生課	5Sの周知等から教室等の整理整頓等の改善や事故のない充実した授業を行うことができている。	B	
	③地域から信頼され、自己肯定感、自己有用感を感じられる「課題研究」等の実践	専門科 図書課 各教科	基礎基本の充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」を目指した課題研究や実習等が増えている。	A	
	④外部講師を活用したものづくり技術力の向上	資格検定室 専門科	ものづくりマイスター派遣事業を活用し、講習会を実施することができる。	A	
	⑤技能向上を目指した研修や教職員間の連携を通じての実習指導力の向上	専門科	教員対象の研修や全国大会の発表の内容が授業や実習における指導に生かされている。	B	
VI 校内組織の活性化と人材育成	①組織のあり方と見直しによる再編	専門科 課・教科 学年団	有機的・機能的に働く組織のあり方を検討し、再編体制が準備されている。	A	B
	②業務の効率化と相互扶助の促進	専門科 課・教科 学年団	自らの担当分野だけでなく、課・科内の業務内容を理解・習得することで、業務の平準化と効率化を推進する。	B	
	③OJTによる人材育成	専門科 課・教科 学年団	ベテラン教員が実習の示範や業務の引き継ぎを行い、若手教職員に技術の向上や業務の継承が見られる。	B	
	④一人一台端末導入に向けた調査・研究の促進	専門科 課・教科 学年団	プロジェクトチームを中心として、令和4年度入学生へのChromebook導入、活用体制が構築される。	A	
	⑤コンプライアンスに基づいた業務の推進	専門科 課・教科 学年団	教員間のコミュニケーションを密にし、情報共有を図ることで、協働的な職場を醸成する。	B	

【上記以外の重点事業】

- ・スーパーエンパイロメントハイスクール研究開発事業の推進
- ・テキスタイル工学科の教育活動の充実
- ・倉敷市老松学区活性化のためのSDGs視点に基づいたものづくり

【プロジェクト】

- ・「魅力ある学校づくり検討」プロジェクト ～入学者選抜志願者数確保に向けた検討～
- ・「Chromebook等のICT活用に関する研究」プロジェクト ～授業等での効果的な活用方法を研究～
- ・「校務分掌の再編検討」プロジェクト ～一人一台端末導入等に対応できる組織の再編を検討～